明治廿九年九月二日印刷
明治廿九年九月四日發行

婦人衛生雜誌

第八十貳號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌
第八拾貳號
目次

講演
◉阿片に就て（前號續き） 醫學士 高田耕安君
◉衛生と迷信 醫學士 山根正次君
◉種痘法發明者善那氏頌徳の記
◉新潟支會に於る高橋氏の講演
衛生叢談
◉マンチエスター婦人衛生會
◉新潟支會記事
◉内務大臣の訓令
◉赤痢病
◉人壽の統計
◉全世界の死亡及出產數
◉本年虎剌列病なき原因
◉學齡未滿の兒童の就學禁令
◉寄贈書目
◉廣告數件

大日本婦人衛生雜誌
第八拾壹號
目次

講演
◉阿片に就て 醫學士 高田耕安君
◉大日本私立婦人衛生會新潟支會記事
◉同支會へ総裁殿下御臨場
衛生叢談
◉擊劍柔術を体操に加ふるの議
◉赤痢病の流行
◉本年のコレラ病
◉海老のおぼろ
◉魚肉生食注意
◉明治廿八年六種傳染病患者及死亡數
◉衛生諸規則違犯者數件
◉三陸海嘯義捐者姓名幷收支決算及三縣知事の謝狀
◉廣告

婦人衛生雜誌第八拾二號
（明治二十九年九月四日發行）

講演

◎阿片に就て（前號の續き）

醫學士 高田耕安君演説

先づ是れが阿片に就て御話を致しました要點でありますが、序でに支那人の阿片喫烟の事に就て少しく述べますれば此東洋……土耳其、波斯、印度、支那邊に於きましては、阿片を藥用とせず一の嗜好品として用ひて居るものが澤山に在ります。支那で阿片を喫しましたのは何時頃かと云ふに、第十七世紀の中比であると云ふことであります。則ち歐羅巴に於て阿片を藥用に供する爲めに廣く醫師の手に用ひ始めた時と同ふして……はやその時より支那に於ては阿片が嗜好品として廣く素人の手に渡りはじめたものと見へます。ソレから此世界各邦、國の隆であるとか衰へるとか或は文明の進歩の仕方に就て大に違ひのありまするのは、其原因の一部は或は阿片を利用したると濫用したるとにありはせぬかと考へられます。印度から支那に阿片を輸出する事は餘程以前からあつたものと見へまして、第十六世紀の始め即ち千五百十九年比に印度に居ッたホルトガル人の談に由れば、其比印度より支那に澤山の阿片を輸出すると云ふことで有ります、併しソレは藥用に供する爲めであると云ふ事で有りました……清朝の初め比から阿片の煙を喫すると云ふことを始めたと見へます。未だ委しくは調べて見ませぬが、凡そ十年程前の

阿片に就て

書物に、支那人の四十プロセント乃至六十プロセントは阿片を喫するといふことが書いてありました。

臺灣が我邦の版圖に歸しました以上は、阿片中毒者はドウすれば宜いかと云ふに、自分等の考へでは、先づ現今の如く阿片中毒者を申出でしめて、誰れが阿片を嗜むと云ふ事を知ると云ふのは至極宜しいでありまするが、ソレからして阿片を喫することを嚴禁するが宜からうと考へらるゝ、阿片が無ければ仕事が出來ない、生命が保てないと云ふ程の中毒者は恐らく割合に少なからうと思ふ……ソレは「モルヒ子」の身体に這入る道が四通有ります。乃ち皮下注射、嚥下して胃より這入る、又灌腸して腸より吸收する、煙とし蒸氣として呼吸器より吸ふのであります。其四通りの中呼吸器より吸入するのが最も緩かな方法であッて、眞に血液中に「モルヒ子」の這入るのは極く微かの部分であると考へらるゝので有ります。ソレから支那人の喫して居る處の印度の阿片は先刻述べました如く「モルヒ子」い少ないところの阿片である、ソレ故に存外重い中毒に罹ッて居るものは少ないで有らうと考へるのであります。併し少ないと申しても一万二万若くは十万二十万或は數十万無いにも限らんで有りますが、先づ多くて二三十万を超えぬで有らうかと考へらるゝので有りますが、サウ云ふ多數の中毒患者を隔離し治療を施すには、ドウ云ふ病院を建つれば宜いかと云ふに、臺灣附近の嶋、其一の全嶋を病院に當てたらば宜からうと考へる。是れまでにも病院船と云ふものは有りますが、病院嶋と云ふものはまだあまり聽かぬ…

…併し布哇では癩病に罹ッたものはモロカイと云ふ一ッの嶋に流す事になッて居る、ソレは一生流し切りでありますが、此阿片中毒者は一年二年或は三年經てば恢復する事でありまするので、サウ云ふ法を行ッても左程殘酷の處置ではなからうと考へらるゝので有ります。

尚は序でに阿片と「モルヒ子」の名義に就て御話をしますれば、阿片と云ふ文辭は原語で「アフイウム」或は「オピウム」と云ひます「オピウム」は希臘の「ヲポス」即ち液汁と云ふ原語より來たものと云ふとで有ります。抑々希臘の太古には八百萬の神々がありました、天の神地の神人の神等の種々樣々の神があッて、其中に夜の神と云ふのが有ります。夜の神の子息に眠の神と死の神がある、其眠の神の名は原語でヒプノスと云ひます。ヒプノスは魔睡術を「ヒプノチスムス」と云ふ其ヒプノチスムスの名を與えたもので魔睡の事から「ヒプノス」と云ふのであります。其「ヒプノス」の子に夢の神ありその名を「モルフエウス」と謂ふ、即ち其名を假ッて阿片の主要成分を「モルフイーン」或は「モルヒ子」と云ふので有ります。

◉衛生と迷信

醫學士 山根正次君 演説

貴女諸君、私は丁度日清戰爭の始まッた頃、當會の御依賴に應じまして、一場の演説をいたしました其時は看護の事と云ふ題で御話を致しまして、當會々長の仁禮子爵夫人を始め有志の貴女諸君が廣島邊に御出張にあッて、赤十字の爲めにいろ〳〵御力をお竭しになることを御話をして、看護の事

は今後益々進歩させなければならぬと云ふ事などを申上げた樣に覺えまする。今回又皆樣より何か衛生上の御談話をいたして呉れと云ふ御申出でありましたから、不敏を省ずまた〳〵當席に出でたので有ります。就きましては何か興味のある御話を致したら宜からうと思ひます、併ながらさしむき面白い事も思ひ當りませぬゆへ取敢へず「衛生と迷信」と云ふ題にいたして置きました。即ち迷ひ信ずる事と、衛生との關係を御話しやうと思ひまする。且つ此事に就きましても、充分に取調べをして御話をすれば宜しう御座いますが、生憎親戚に不幸がわッて、此際材料を取聚むることも出來ませぬ。從ッて腹稿も充分に作ることが出來ませぬから、今日申上げまする事は甚だ御話しばえが無からうと思ひまする。本題に入ッて御話を致しまする前に、鳥渡私が本婦人衛生會に對しまする希望を述べて置きたいと思ひまする。其事は先日神戸に於て開きました所の、大日本私立衛生會の總會で「戰後の衛生」と云ふ意味で演説をしたので有ります。其次第を申せば、日本は皆樣の御存知の如く此一兩年間に、其國の勢地位に於ては非常に變化を來しました乃ち日本と云へば海外の人は東洋に於ける小さな島邦の如く是れまで思ふて居りました、所が思ひの外淸と云ふ大きな國と戰爭をして勝ちまして以來、西洋人なども實に驚いて、遽かに日本は實に侮るべからざる邦であると言ッて、大に日本人を恐るゝ樣になりましたので、自然我日本は大國の仲間入をした姿となッて參りました。從ッて彼等は日本を妬しく思ふ樣になりました、其結果將來我日本は他と衝突

を惹起す慮が有る。若し我國が西洋の多くの邦を敵手にして戰鬪をする際に至ッて、果して我日本が勝算が有るかと云ふに、敵手が支那や朝鮮の如き國なれば固より恐るゝに足りますまいが、併ながら万一彼の支那より遙かに開けた、遙に强大なる武備を持ちました國例を申さば露西亜とか、或は佛蘭西とか云ふ諸國と戰ふたら如何で有りませうか、迚も今日の國力位ゐでは何とも安心が出來ない。右の次第で有りますると、ドウしても此際國の力を强うしなければならず、又仮令戰爭はせざるにせよ、歐米の諸國と肩を比べるには充分に國力を養成しなければならぬ。さて國の力即ち一國の勢力は何から成立ッかと云ふに、陸軍海軍と國民の財産のあるのとで有ります。若し陸に百萬の兵が有り、海には數十艘の軍艦があッて、之に加ふるに國が富んで居ッて、いくら遣ッても金が盡きぬと云ふ曉には、曩に謂ふ露西亜が來ても佛蘭西が來ても恐るゝに足ることは無いと思ひます。然るに陸海軍の强固なるも、國の富と云ふ事も皆國民の健康なるに於て始めて望まるゝ事で有りませう。若しも國民が弱きときには、此兵隊を作るにも決して充分の者を作ることが出來ない、其結果は如何なるもので有りませうか、如何に多くの軍艦大砲を置いて戰爭に備へても、之を動かす所のもの身体が弱くては充分に軍艦器械を活用することは出來ない。ソレで人民の體力が日々に衰弱に赴いた日には決して强い兵隊を得られない今日でも兵卒を取るのに、國民百人の中より三十人の甲種に合格するものを取り得る處は、全國に一二ケ所しか無いと申すことである殊に東京大坂

の如きは百人の中に甲種の合格は六人乃至八人位ゐしかないと聞きました。ソレで軍艦が殖え、師團が增され砲臺が增築せらるゝ場合には、是れまでよりは澤山の兵隊が要ること故、已むを得ず合格の程度を下げるやうになりやしないかと云ふ事にあッた故、此國民の體力を增加することを、我く々は計らなければならない。國民の体力と云ふことを盛にして非常にからだを健康にして往かなければならぬ、國民の体力をして健康に導くには是非衛生といふ事を盛にしなければなりませぬ、其はかには他に道は無いのであります。此我日本の國民の平均せる體格は如何で御座いませうか、日本の人民の體格は甚だ歐洲人より劣るのみならず朝鮮支那の人々より劣ると云ふことで有ります。私は嘗て日本私立衛生會にても御話をしたが、日本の人なれば、二人若くは三人で負ふものを、朝鮮人は一人で擔ふて二里も三里も往くと云ふ事、是れは我陸軍に附隨して彼地に行た人の實際話で實に其人々も是れだけは殘念であッたさうで御座います。又蒸汽船に乘ッて居る水夫は、日本人を二人用ふる所に、西洋人の如き强壯のものあれば一人で足る、日本人は二人かゝらねば動かされないものを、西洋人は一人で爲る、實に殘念であります。又私共が大學を出まして長崎に參ッて「ボートレース」を催しましたことがありました、彼地には東京のやうに常に舟を入れて置く處が無いソレ故濟んだ後は、私のやうな小さい者が七八人懸ッて之を陸に引上げる、其樣は恰も蟻が聚ッて大きな蟲を引張るやうなものである。處が露西亞の「マトロス」が來て二人で引上げて呉れた、私

共大學では隨分腕白で、力も强い方であッたが、とても外國の人の力には適はなかッた其時には我々は赤面をした次第でありました。今日の如き體格では日本がなか〱强國の仲間入は出來ないので有ります、啻に强國の仲間入の出來ないのみか今日の狀態の永遠に保つ事が如何で有らうかと思ひまする。天保年代に生れたものより嘉永時代の者が弱い、明治の者は又弱い、加ふるに肺病黴毒の如き遺傳病は次第に增加する、非常の速力を以て國力を減ずる所の病が殖えて來る、即ち肺病の如き黴毒の如き病で有ります。ソレで前に申す如く徵兵の合格者は比例を減じて來て、實に今日は軍備擴張の秋でありまするに、國民の体力を顧ればかくの如き狀態で、眞に憂ふべきの次第である。故に今日の急務は健康なる國民を造くることとであります。健康の人間を造くるには、種々の要素が入るが、先づ第一に私は健康なる婦人を造くることを希望する、健康の母は健康の兒を生むと云ふ原則に基くので有ります。其の健康なる婦人は如何にして得らるゝや、婦人たるものは衛生の理法を解し、之が實行をするので有ります。然るに我日本に於ては兎角衛生の思想に乏しい、殊に平均致しまするど、婦人に至ッて最も乏しい、併し幸ひに本會員の如き團体かあッて、皆様が熱心に衛生思想を、婦人に普及せむ事を勉めらるゝは、私共感服に堪へざる處で有ります。固より衛生と云ふ事は、何れの時にも必要で有ります、尙は我日本の國勢より言へば現在は申すに及ばず、將來に於ても益々其必要を加えて參りまする。ソレでドウぞ皆様は其御心を以て一層婦人に衛生の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

事を解するもの丶殖えるやうに、御盡力あらむ事を望むので有ります。先刻から皆様の御談話を承わりまするのに、皆様は大層養蠶とか云ふやうな事に御勉強なすッて、なか〱御からだを御用ひになッて居らる丶有様であります、之を覩ッて私は非常に感服を致します、且つ爾う云ふことをなすッても、餘り御疲勞の無いやうに見へるのは全く平素衛生上の御心得が宜しい故と思ひます。然るに此頃は婦人が大層活潑と云ふ樣になッて、夫人社會令孃社會に於て蠶などの爲めに、夜を深更すと云ふやうなことでなく、或は花をひき藝妓を呼んで夜を更かすと云ふやうな事の有る御方も有ると云ふことを、某大臣の所で聽きましたが、サウ云ふ不養生は取ッて除きたいと思ひます、ソレより惹き起す病氣も隨分多からうと思ひます。

凡そ衛生上の弊害になる事は種々有りますが、即ち前に申したやうに、衛生と迷信と云ふ題に就て是れより暫く說からうと思ひまする。

此衛生上の弊害なるもの丶種々ある中に、其うち最も弊害を爲すのはなんであるかと云ふに、即ち迷信で有ります。此迷信と云ふことは、人間としては殆ど免かれぬ事で有ります。彼の西洋人などはかしこげなる顏をして居るが、矢張り御幣を擔ぐのは迷信を大へんに持ッて居る、例えば金曜日の如きは旅をしては往けないとしてある、私共が彼方で旅をすると、金曜日だから廢せと云ふ……或は耶蘇が殺される時は十三人故、食卓に就くときに若しも十三人になると、一人は是非ソコをぬけると云ふやうに、宗教家は頻りに斯樣な事を嫌ふ、又咖啡を飲むとき、咖啡の滓が浮く、その凝

固が浮くとドウであるとか、或は砂糖を入れて泡が一杯に立つと、金が利潤かると云ふやうな馬鹿げ切た事眞面目に信じてをる此迷信と云ふことは文明を以て自ら誇る西洋人ですら持ッて居る。殊に此迷信は東洋人に多いので有ります、東洋人中で日本人に最も多い、殊に驚くべきは東京に多い東京は言ふまでもなく我邦文化の中心たるにも拘らず、迷信の多きは如何の次第で有りませうか、是れ教育の普及せざるに因ることゝ考へまする。又此事を想像の上よりいへば、甚だ失敬の申分であるが迷信は男子の社會に多いか、女子の社會に多いかと云へばどふも御婦人社會に迷信をする人が多いのであります、併ながら勿論本會員の如き學識教育のある方々は、萬々其憂ひの無いことは私も信じて疑ひませぬ。そもそも此題を喋々述ぶるは甚だ必要の無いので有ります、しかしながら皆様方は婦人中の先覺者の位地に御立ちになる事故、何卒斯様の衛生上の弊害になる事を打破ッて戴きたいと云ふ心から、鳥渡其御話を申上ぐるので有ります。

前に申述ぶるが如く、比較的婦人に迷信が多い、殊に東京の婦人に多い、元來婦人は物に刺激をされ易い、就中教育の無いものに於ては殊に感情の刺激を受くることが多い。ソレで有りまするから耶蘇教の信徒は必ず婦人より取り込むやうになッて居る「レ、バイ、バール」とか云ッて氣狂ひのやうになるのは婦人に多い、又蓮門教の教頭島村みち、天理教會の發起人みき婆の如きも、みな女子である。又狐憑、狗精に取附かるゝものはドウも婦人に多い。私は男に狗精のついて居ッたと云ふも

のは未だ實驗致しませぬ。是れは如何なる原因であるか、私は教育無きの致す所と斷言して憚らぬと思ひます。此迷信と云ふことは多くは宗教に凝り固るより起るので有ります、宗教は悪を懲らし、善を勸むるものであるからして、信心するのは決して悪いことではない、併ながら凝り固ッた爲めに身を過り、併せて他人をあやまるに至ッては決して眞正の宗教と云ふことは出來ない。落語家などが凝ッては思案に能はずといふが、これは凝ッて爾う云ふ事をする、此宗教の迷信より衛生上に害を及ぼす事は少なくありませぬ。是れから漸々御話をいたしますが、先づ第一に咒術であるこれにも種々有ります、昔田舎の者が東京に來て……昔は東京ではない江戸と稱へし頃で有ります田舎に歸りしとき余り土産の無いも興なしとて、疊の縁を取ッて、是れは痲痺の咒術であると云ッて人に送ッたと云ふ話がある、是等は罪の無いことでありますから、別段に咎むるにも足りませぬ併ながら虎列剌病を狩るには笹良三八郎の御宿と云ふ札を貼付け、又鬼瓦を戸口に建てゝ置くと虎列剌が防げると云ッて、是れで安心をして居るのは非常に不都合と思ひます。是れは笹良三八郎君の御宿でも、鬼瓦が建ッて居ッても不養生をすれば遠慮なく遣ッて來る、其他にも種々の事が有ります、是れは一例に過ぎませぬ、咒術の不都合はまづサウ云ふやうな事で有りまする。

ソレから卜筮、便ち東京には八卦を見て貰うと云ふことが大變流行する、併し此八卦と云ふことは人の運を強くすることも、或場合にはあるのであります。譬へば今「御前方よく働かなければ往か

ひといはれたときに、其通りに働けば成程金も儲るでありませう、けれども亦迷いを生ずることも有ります。醫師を極めるにも八卦に依る、今までの醫師は方角が惡いと云ッては八卦を見、或はこれまでの醫師は惡いから、今度は南とか、或は猫の方狗の方とか云ッて其方角の醫師に換えたら、御前の病氣は忽ちに療るなどゝ云ふは、是れは實に衛生上の弊は言ふべからざるもので有ります。昔都村毒庵山井庸仙など云ふ醫師先生は賣卜者に頼んで置いて、病がわるくて八卦を見て貰ふ人があると、是れは北の方の醫師に見て貰へといはせる、而して病人は皆自分の處に集るやうにさせた、その爲めに山井先生は賣卜者と結托して居ッたと云ふことを聞き及んだ……私は御斷りをして置きますが、其仲間では有りませぬ。

第三に井戸迷信者の中に井戸を新設するのを嫌ふものが有ります、何故かと云ふに殊に昨年の如きは虎列剌に對し數十回の演說をした、其時に井戸渫ひの事をいふても之を拒むが爲めに、衛生の實行上に差支へた、天理敎會の如きは家の左方に在る井戸を渫らうと、ソレが爲めに病氣が來るといふやうな迷信を持て居ッて、ソレが爲めに、却ッて流行病を招くと云ふ樣な恐れが有ります、是等もすなはち迷信から病毒蔓延せしむる譯で有ります。併し此溝渠を開けると云ふやうな事は、或は極く熱い時に於ては、溝渠を渫うといふやうな事は害の有る事でありますが、時候の好い時に井戸流しを渫ひ、井戸の周圍を淸潔にすると云ふことは極く善いことでありながら、迷信の爲めに神の意に逆ふとか云ッて否むものが有る。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第四神水、宗教に因ッて、御水と云ッて腐敗したものを難有たさうに與えて居る花瓶の中の水などの腐敗したるものである、之を眼藥にすると病氣が療ると申して居る、療るどころでは無い、コンナものを飲んでは大へん、神前の酒などはアルコールが有る故に腐ることも遲いが、水などは忽ちに腐る、ソレを飲むと、病氣が癒えると云ふやうな恐るべき事をいふ。

第五通夜、夜參り通夜などゝいふことは、宮の內に大勢の人が集ッて終夜をして佛を念じ、神を祈るので、斯う云ふことは今日でも盛にある、乃ち鎌倉のなにとか云ふ寺院では徹夜男女混合して御通夜をする、是れは實に風俗を害するのみならず、安眠も害するので、實に衛生上の弊害は大なるもので有ります。

第六は祈禱、病氣は醫師が治療するのが正當でありますが、ソレをば醫師の診察を覓めずして、神佛に祈誓を籠める、便ち祈禱をして何卒神樣私の病氣が療りますやうと、祈りつゝ死に至るものが往々あります。東京などの下等人民の社會に最も多い、先づ病の初發には按腹鍼術、次に漢方醫、ソレから西洋醫といふ理窟になッて居る、併し神樣は既に世の中に醫師と云ふものをこしらへて居る以上は、必ずソレに依ッて病を治して貰ふべきものと考へて居る、ソレを差置いて神に祈ッて癒さんとするのは大間違ひであります。

第七は飲食、我邦では大厨に多勢相會して飲食をする場合があります、是れは既に前に申しまする通り風敎の害になるのみならず、衛生にも非常に害が有ります。某所に虎列剌が有りました、然

るに虎列剌患者のありし事を秘して、ソレを葬送した、併し普通の病死と思へる事故、ソコに往ッて聚ッて飲食をして、ソレより大へんに病氣を蔓延さしたと云ふことで有ります。是れは去る十九年の大流行に於ける一例、ソレが爲め大へんに病毒を撒布したので有ります。ソレで死んだ處、即ち不幸のありし所に住ッて飲食をし、病家で飲食し、祭祀の場所等に參ッて食ふ飲む等の大騷ぎをするのは、衛生に於て決して善い事では有りませぬ。殊に此東京などでは會葬者に饅頭を配り、菓子を遣ると云ふことが有りますが、是れは實に無用の費なるのみならず、爲めに衛生上の弊害を惹起します……飲食の事に就て尙は少し申して置きたいのは日本には宗教上から御精進と云ふことが有ります。尤も是れは親を喪ッたと云ふやうな場合に爲すことで、大へんに嚴かにすることであります、併ながら此精進と云ふことは衛生上より言ふときは、甚だ宜しからざる事と思ひます。西洋では御精進と云ふときには、ドウするかと云ふに、平生獸肉を食ふものが魚肉を食ふ、ソレ故衛生の點に於ては害は無い、殊に天主教で精進をするのは金曜日で、此日に精進をして、魚肉を食とする彼の「スマトラ」、是れは和蘭に屬して居る一大島國、玆に昔羅馬の法王が和蘭の隆なりし比、和蘭國に向ッて、此島に耶蘇教を開きたいがドウしたら宜からうと申した、其時に和蘭はソレは宜い、併し私の方のいふ事も聞いて貰ひたい、外ではない御精進には魚肉を食ふと云ふことを遣ッて吳れと賴んだ、サウしまするど、海を環ッて居る和蘭の海岸、及び島には魚の需用が大さうに增し

た、つまり自分の政畧上から精進を頼んだと云ふ事があります。獣肉を食はむでも魚肉を食すれば大へんに滋養が有るので、是れは害は無い。ソコで日本人は親の祭、忌中は五十日間椎茸の煮出しで煮たる麩、干瓢、午蒡等を食ッて居りまする、ソレ故に忌中の人（但し正直に精進してをる人）を見ますると、多くは男子は髯が生えて色が蒼くなッて居る。衛生と宗教とは斯くの如き關係にあッて居るので、害になることが種々有りまする、今申しましたやうな事柄は未だ澤山ありまする、けれども私はモウ是れ位にして、餘は畧して申しませぬ。

此類の弊風は地方より東京に甚だしく行はれて居る、皆様御覽なさい、市内到る所に、鬼子母神、摩利師天、稲荷、閻魔、地藏、其他怪しい神佛の堂が在ッて、毎日茲に參詣するもの、跡を絶ちませぬ。蓮門天理御嶽と云ふやうな怪しき教會も夥多しく在るではありませぬか、幹枝とか陶宮とか譯も分らぬ方術を教ゆる所が澤山にある、是等の事物を信仰するのは、比較的婦人が多數を占むるのは何人も看て疑ひませぬ。爰に私は宗教の可否を論ずるのでは有りませぬ、併ながら私の觀る所では、未來を説く宗教は害が無いが、現世を説くのは害が有る耶蘇教の如き一向宗の如きは弊が少ないが、現世を話するのは前に申すが如く衛生上の弊害が多い、是等の宗教は僧侶神官を以て醫師の代用に爲して居りまする、則ち坊主が醫師を兼ね、神官が醫師を兼ねて居るやうに思ふソレ等の人は神水を以て藥とし呪術を以て手術の如く思ふのであります、是等は衛生上實に大害ある事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と思ひます。然るに今日の如く文明世界の而も東京の市中で、此般の弊害を存して、恬として氣を付けないのは實に慨歎に堪へませぬ。賢明なる貴婦人諸君は、此般の惡風たるは夙に御氣が着いて居らるゝことゝ信ずる、ソレで私は皆樣に御自身此弊に陷りたまふと申すのでは有りませぬ、然るに何は且つ此言をなすのは、皆樣が進んで此弊を打破られん事を望むので有ります。皆樣は高貴の位地に在らせられて、一般婦人の範標とあらせらるゝ御方々故、あなた方の下に立つ處の婦人も澤山有らうと思ふ。若し邪敎弊風に精神を濫さるゝものがあッたならば、諄々其弊を御說きにあッて、之を戒むべきであります。此事たるや些細の事で有りまするけれども、衛生上至大の關係が有ッて、將來健康なる國民を出すことに就ては、容易ならぬ影響が有らうと思ひます。

戰後の衛生に就ては、他に申すことが澤山に在りますが、又後日重ねて衛生上の御話を致さうと思ひます。今日は甚だつまらぬ御話をいたしましたが、此次にはよい御話を致しますから、ドウか今日は是れで御免を願ひます。

●種痘法發明者善那氏頌德の記

(前々號の續)

千八百十三年(我文化十年)善那は「ヲックスフォールト」大學より「ドクトル」の學位を贈られたり其翌歲乃ち千八百十四年(我文化十一年)の四月善那は五度目に「ロンドン」に出で、三箇月の間茲に逗留せしが尋で「セルテンハム」に歸り千八百十五年(我文化十二年)九月十四日に其妻の「カザリン」、

キングスコー」を失ひてより終に故郷の「バークレイ」に退きて餘生を此地に樂しむこととなせしが千八百二十年（我文政三年）の八月六日腦卒中に罹り幸ひ一旦は恢復せしも其後三年を經て千八百二十三年（我文政六年）の一月二十六日再び同症を發し七十五歳を一期として遂に此世を去りにけり其死せし時遠近の國々よりは善那に恩惠の主といへる號を贈り其年の二月三日「バークレイ」の某寺院に葬りたり

善那は少年より万有學を好み植物學及び鳥類の學に心を寄せ或は化石を採り集め又詩歌音樂に長じ醫學會に盡力せしこと多く心臟神經痛眼炎心臟瓣膜病等に就きて有益なる演説を爲し外科は勿論產科をも施術し結晶法によりて醇精吐酒石を製する法と云へる論文を出だし犬の病子宮内胎兒天然痘感染の摸樣、人身の病に對する發疹の影響、鳥類、移住に關する經驗等の書を出版せしことあり天性最も謙遜廉潔の人にして常に其節を改めず曾て人ありて善那に勸め若し足下にして「ロンドン」に來り住ひあらば一年一萬金の收納はあるべしと言ひしとき善那は之に答へて否我は少年の頃より卑下の路を行かんことを求め常に幽谷に住むを欲して高山に上るを望まざりき今や一生の暮に及び我身を役して名利を求むるの道具と爲すことは迚も我身に適當せぬ事なりと言へりしとぞ其名譽はます〳〵著く其美德は益々厚しと謂ふべし善那の肖像世に遺れるもの其數多く畫にかきし像大理石に刻みし像銅像に作りし者等あり今日我紀念會の上壇に置く所のものは千八百四年（我文化元年）に刊行せし歐州雜誌に載せたる善那の肖像を取り美術家

藤田文臧氏に委して像を作り即ち今日の主と爲したる者にして本書の始めに載せたる者は即ち其像を寫したるなり又大日本私立衛生會にては別に善那の銅像を作り紀念の爲め東京に建つるといふ

附

日本種痘の沿革

我邦には誰れ人の創めしや數百年前より安房の國海邊の村落に一種の種痘法行はれたり其は天然痘の痂を採りて人に種ゑしと言ふ其後延享年間支那蘇州（又は杭州といふ詳ならず）の李仁山と云へる人長崎へ來り支那の種痘法を傳へたり此法も天然痘に痂を粉末にして鼻孔に吹き入るゝ者なり次で寶暦二年支那より醫宗金鑑といへる大部の醫書我邦に傳はり此書中に精しく種痘の事を載せたれば安永七年其種痘篇を拔萃して種痘心法と題し出版して世に公にせしより種痘の事はこれより漸次に世に行はるゝことゝなり文化文政の頃より天保安政年間に至りて此法大に行はれ種痘家を以て名を成せし者も少からず肥前大村の人長與俊達、芳陵英伯、筑前秋月の人緒方春朔常陸水戸の人本間玄調、上總佐貫の人井上宗端、木下川の庄屋次郎兵衛、武州忍の人河津隆碩、江戸の人桑田玄眞及び桑田立齋等孰れも皆種痘家を以て高名なりき次に寛政五年西洋種痘法の我邦に入りしや和蘭人某役人高木氏の望に依り長崎に於て此法を施せしを以て始めとす支那の種痘法の傳はりしより後五十年に當れり此法は天然痘の十分に膿を滿てる者を破りて其膿を鍼に塗り小兒の尺澤の靜脈に刺して後綿を貼てゝ其上を布にて縛る者にして善那氏の種痘法と殊

なる者あり但し此法は暫時にして中止せしが如くありしも二十年の後江戸の醫士桑田玄眞長崎に遊びて西洋醫書を學び「ヘストル」の種痘論を讀むに至りて大に其講ずべきを知り先づ自分の子に之を試みて益々之を擴め其子笠齋も亦此法を傳へしと言ふ

―普那氏種痘法の我邦に傳はりし由來を尋ぬるに支那の嘉慶十年(我文化二年)四月此法先づ支那に渡り支那南海の邱熹といへる人熱心之に從事して引痘略と題する一書を著はし支那の道光十一年(我天保二年)に出版せし者我邦に傳はり紀州の人小山肆成之に校訂して種痘新法全書と題し天保十三年之を出版して世に公にせし事あり但是より先普―那氏の牛痘發明は多少人の聞く所と爲りしも未だ其痘苗を得ること能はず醫家の以て憾とせし所なりしが文政の始め和蘭の醫士某始めて痘苗を長崎に齎し來り我日本人に種ゑんことを勸めしも當時の人皆之を疑ひ其種痘に應ずる者なかりしかは百方之を諭して漸く七八名の兒女に種ゑしに其中通譯官某の女のみ獨り之に感染し他兒は皆感染せず依りて其一女子より牛痘の漿液を採りて他人に移さんとせしも種々の惡評浮言に惑はされて其傳接を受くる者なかりし爲め終に其痘苗を亡ひ全く中絶するに至りしといふ其後二十年餘を過ぎ天保十年和蘭の人「リシユール」といへる者再び牛痘液を持ち來りて種痘を試みんとせしも應ずる者寡く僅かに二人の小兒に之を種ゑしも感せずして其種消滅したり次に又天保十二三年の頃江戸の人林洞海大石良榮の二人相謀りて當時の長崎町年寄高島四郎太夫(秋帆と號す西洋砲術を傳へし人なり)に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

托して痘苗を和蘭に需めんことを乞ひ高島氏は豫ねて和蘭人より種痘の事を聞き之を我邦に得ばやと思ひし折柄なれば直ちに和蘭人に依頼せしに和蘭人も大に周旋して痘苗を本國より取寄せ高島氏に贈りしかば林洞海等之を以て長崎の兒女十二人に種痘せり然れども不幸にして皆感染せざりき此際高島氏は尚其痘苗の一分を以て江戸の大槻俊齋に贈り俊齋は直ちに之を淺草藏前の伊勢屋某の兒幾次郎なる者に種ゑ幸にして効驗ありしといふ是れ牛痘を江戸に種ゑたるの始めとすされども此苗は永續せずして全く消滅するに至れり當時高島氏は折角和蘭より取寄せたる痘苗も多くは其効なかりしを以て甚だ遺憾に思ひ之を和蘭人に謀りしに彼れ曰く其痘苗は赤道直下の印度洋を渡り來るを以て變敗の爲め之を種ゑるも善感の性を失ふべければ寧ろ子供に種痘して日本に連れ來るに如かず其子供を連れ來るには乳母をも添へざれば叶ふまじと茲に於て婦人を連れ來る事は當時日本の國禁なれば如何とも致しがたく蘭人も亦大に當惑せしといふ然れば我日本に於て其痘苗を發生せしめんとして當時の熱心家が種々の工夫を費やしたる盡力のほど推して知るべし

弘化四年七月鍋島閑叟侯は西洋種痘法の事を聞き其醫員楢林宗建に内命を下して牛痘苗を求められしが幸に同年九月歸國の和蘭船あり之に托せしに其翌嘉永元年十月長崎入港の和蘭船を以て蘭醫「モーニッケ」氏牛痘苗を舶載し來れり「モーニッケ」氏楢林に謂ふて曰く痘苗は五十日を過ぐれば感染の力なし今此處に持ち來る者も既に四十餘日を過ぎたれば速かに種接あるべしと然るに何か事

情ありて尚數日を延引したれば其種苗は復た一も感染せずして已みたり此時楢林宗建は「モーニッケ」氏に言ふ樣日本の種痘には人痘を種ゑる毎に痘痂を用ゆ此痘痂は數月の久しきに渉るも能く感染するの力あり故に牛痘に於ても其痂を用ゐば如何んと「モーニッケ」氏も之に同意し直ちに和蘭船の歸國便に托して其本國に牛痘の痂を贈ることを通信せり

翌嘉永二年長崎入港の和蘭船牛痘の痂を舶載して「モーニッケ」氏の許に達せしかば直に之を三人の小兒に種ゑしに二人は感せざりしも一人は能く感受して善良なる痘を發したり時に楢林宗建は其好結果を認めしや其年の八月六日長崎より佐賀に趣き其旨を鍋島侯に上申せしに侯大に喜び藩醫に命じて先づ其兒に種痘せしめ皆其結果の宜しきを得たれば直に公子淳一郎君(即ち今の直大君)及び貢姫に種接せしめらる是れ亦好結果を得たり之に依りて侯大に歎賞し天下疱瘡の爲めに非命の死を遂ぐる者實に幾許なるを知らず而して尚之を救ふの術なし汝率先して之を救ふは眞に上醫は國を醫すると謂ふ者なりとて厚く賞せられしかば楢林氏益々志を勵まし暫時の後長崎に歸り江戶及び京都に善良の痘苗を贈り又牛痘小考と題せる一書を著はして種痘の法則を述べたり是より牛痘の苗天下に傳はり其術亦廣く世に行はるゝに至れり

嘉永二年の夏肥前大村藩七役長與俊達氏は長崎の通譯官西吉兵衛より急使を以て「ドクトル、モーニヲケ」氏の痘苗芽出度發痘したる旨告げ來りしかば實に轍鮒の水を得たる心地悅び勇みて尾本涼海(翁年八十許今尙東京に在り)に孫女(現在專齋君

の妹）及び未痘の家僕を附け即夜長崎に遣はせり斯くて日ならずして尾本涼海は首尾能く牛痘を種接し歸り來りければ多年の宿望成就して驪龍頷下の珠は手に入りながら國の制禁嚴重にして直に種ゑ廣めん樣もなく常例の如く種痘山（時の人抱瘡を怖るゝことの甚しきに依り山林を區劃して此處にて種痘し來れり恰も避病所の如きもの）を開きて此處にて種痘する事とは爲しぬ然るに此道の開くべき運にや九月の初旬より松原（城下を距る二里許）と言へる村に天然痘流行して數人斃れにければ村人驚き恐れ危急の際に臨みては平生の疑惑に拘はる暇もなく牛痘の事を聞き傳へて種痘を望む者多く隨て種繼の便を得且つ實地の經驗茲に現はれ九月下旬に至りて其評判喧傳して松原近傍の村々より登山するに至りしと云又同年京都の人日野鼎哉の許に痘苗の達せし時越前侯は豫ねて牛痘の効益を信じ藩醫笠原良策に命じて長崎に向ひ支那より痘苗を得んとせられ良策の長崎に趣くや其途次日野鼎哉の既に痘苗を得且つ己れに分苗すべしとの報知を聞きて大に悦び直に越前より三人の小兒を京都に招き寄せ種痘して藩に連れ歸れり又大坂の緒方洪菴も此事を聞き禮を厚ふして日野氏に分苗を求め一社を大坂に設けて種痘の普及を謀れり又此時江戸に於ては戸塚靜海大槻俊齋林洞海伊東玄朴等有志の官醫協同して種痘の普及を謀れり又同じく嘉永二年十一月十三日の事なりき桑田立齋は伊東玄朴に出會し一昨十一日牛痘苗長崎より鍋島侯邸に到着し直に同邸に於て同氏の種接せられたる由を聞き相約して十八日自ら大澤某の二女兒（八歳と五歳）萬屋某の一男兒（二歳）を伴ひ同

邸に至りて種接し二十五日自宅に於て牧野遠江守の女外十二兒に種接す是より以來連綿と保續し孜々汲々之に從事し二十年間一日の如し其間他の侮辰するを厭はず他の誹毀するを顧みず日々自ら街上を廻り歩き何れの地誰れの家たるに拘はらず未痘の兒を見れは便ち其家に就きて種痘を勸諭す或は疑ひ懼れて悟らざる者には百方解き示し承諾せざれば止まず猶牛痘發蒙と題せる一書を著はして數千部を印施し貧家には金品を施與し兒輩には土偶彩繪等を與ふる等勸奬の方便到らざる所なし加之盛夏嚴冬に到る毎に痘苗の接續に言ふべからざる苦辛を嘗めしも遂に活漿を保續し得て年々諸方に分苗すること亦鮮からざりし其頃大野松齋氏も亦一意專心種痘に從事し痘苗接續に最も盡力せしといふ

長州侯は青木研藏を以て痘苗を長崎に求めしめ其他各藩翕然として種痘を其封内の人民に施さしめざる者なきに至れり但し此時に當りて醫家の種痘に從事せる者概ね只其術あるを知りて未だ眞假の鑑別再感豫防等の事を知らざる者多かりしが京都の人廣瀬元恭茲に見る所ありて西洋醫書に就き此等に關する要點を翻譯して西洋牛痘新法と題せる一書を著はし引痘分苗の術眞假の鑑別法及び痘苗蓄藏法等を詳論せり然れども此書全部十餘卷容易に上木して世に公にするを得ざるを以て更に英人某の書を得て之を翻譯し牛痘奇法と題して嘉永二年十一月之を出版し大に種痘家の便利を與へたり

其後安政五年四月二十四日大坂に於ては公然官許を得て種痘する事とは爲りぬ抑も種痘の官許を得

しは大坂を以て始めとす次に江戸に於ては萬延元年七月官許を得て始めて神田お玉が池に種痘所を設立せり是れ元と安政四年八月戸塚靜海、伊東玄朴、竹内玄洞、箕作阮甫、三宅艮齋、林洞海等の諸氏太槻俊齋の宅に相會して協議し其後醫士八十餘名の贊助醵金を得て成立ちし者にして固より私立の一社なれば其規約も實行し難き事多く種痘を受くる者も春秋の好季節には其數多く雨雪又は夏冬の嚴寒酷暑には一人も來る者なく爲めに數回痘苗の盡きんとするに至りしとあり此に於て贊成の醫士は必ず二三の未痘兒を其病家等より周旋し來る事に約せしも多くは忌み避けて之に應せず是非なく湯屋の二階番髪結床又は洗濯婆などに賴み置き一人の小兒を周旋する者には若干の金錢を與ふることを約定し辛じて痘苗を繼續することを得たりといふ

大政維新明治の御代に至りて長與專齋氏は文部省の理事官に隨ひ西洋諸國を巡遊し歸朝の後曾て和蘭に於て目擊したる方法に據りて犢牛に試みるに種痘を以てし幸に佳良の成蹟を得たり茲に於て明治七年六月始めて東京馬喰町に牛痘種繼所を設立せり抑も嘉永二年牛痘苗の傳來せしより種痘の法漸く天下に普及せしも皆人より人に傳接したる者にして猶種痘の全効を收めざりし者茲に於て始めて新鮮の痘苗を得且其目的を達し更に痘苗を海外に仰がざるに至れり

（畢）

◉婦人衛生會に於ける博愛的衛生并に其緊要ある一の事柄

新潟支會に於ける講演　高橋辰五郎述

衛生には公衆衛生則ち傳染病豫防規則上水下水の

衛生工事等と自巳衛生即ち一家の飲食住居等に注意するとの二種あります中にも公衆衛生は最も先として注意せねばなりませぬ婦人衛生會にての公衆衛生は博愛的のものでなければなりませぬ例えば新潟市に於ては死産兒の數が縣下中最も多く百人中十六人(一ヶ年生産千四百三十九人死産二百三十五人)て東頸城郡は最も少なく百人中三人てありまして縣下平均百人中八人であります如此く當市に最も多數なるは市人の虚弱なる爲めか小兒を粗末にする爲めか又は産婆の開けない爲めか何れか原因なくてはありませぬ此等の婦人に關係ある事柄は之れを改良する方法がありたらば婦人衛生會の最も多く盡力す可きものと思はれます次に私の緊要なる一の事柄と云ふは死体解剖の事であります解剖は醫學を進むる第一の方法にて衛生家の最も勸めねばならぬ事柄であります故に西洋に於ては一般の人皆な望で解剖を行ふの風俗でありて醫學が進み衛生上の幸となりて居ります

私共醫師が病者を治療するに不明のもの多くありまして是非解剖を要する者が常にござります併し一般人は到底解剖を好ません故に日本に於ては病原の不明なために施こす可き治療も出來ずして生命を救ひ得ないものは何程多いか分りませぬ之れによりまして日本の家族中に解剖を嫌はぬと云ふ氣風を養ふことが今日の急務と信じます一家の中氣風を造るのは其權力實に婦人に在りますとですから本會々員諸君は解剖は必要なものぞ成る丈け行うた方が宜しいと云ふ風に致したいと思ひます凡そ人間は生ある中には兵士となりても國家の爲めに命を抛たねばなりませぬ死したる後に身体

を以て公衆衛生の爲めに解剖を行ふ様なことは當然のことであります而して此氣風を養ふに付きましては只口に稱へる計りでなく實地に奬勵せねばなりませぬ是れには其方法多くありますけれども現に病体解剖を望みたる人に此衛生會より感謝の辭及び香奠等を贈くることが最も緊要であります箇樣な事に就きて着々實際の行を以て實功の現はるゝ様にするのが最も必要でありまして衛生會の世に盛んにするの要法であります徒に不消化なものを喰べるな奇麗な衣物を着一家の掃除が肝要だ抔と云ふ位なことにては小僧の心經を讀と同じことにしまして何にもなりませぬ遠からず衛生會の衰ひますより致し方がありませぬ故に私は婦人衛生會の博愛的衛生の手近にして必要なる一ッの事柄は先づ解剖を勸めることであると信じます皆さんの御賛成を得たひものであります

衛生叢談

●マンチエスター婦人衛生會

先頃マンチエスター公會堂に於て開催せるマンチエスター婦人衛生會本年通常大會は出席者甚た多く場内寸地を餘さゝりき會長たる同州知事夫人ミーク――氏は參集の會員に對して謝辭を與へ次いて曰く當地の或る部分に於て陋屋相連なる彼の貧民の住家は之を改築し又は修繕を施すにあらすんは到底公衆衛生の目的を達する能はす若しも現在の家屋を永く其儘に棄置く時は彼れ等は所々に轉寓し且同類相集まるの傾向あり斯くして不潔は益す其度を加へ衛生掃除の法は之を行ふ事甚た

難きに至らん心あるもの此際彼れ等の爲に幾分の優れたる家屋を得せしむるの道を講し一は貧者の不幸を安慰し一は自他衛生の普及を謀る事誠に希望に堪へさるありと述へ、次に同會勞働部幹事ハーデー夫人は前年度業務の報告を爲し且衛生事業に經驗ある三名の講師が本會の請に應して出演すべき旨を告て滿場に紹介し尚同會の事業に就て吾々が曾て一臂の力を假して建設せしめたる浴場と地位の不便と湯錢の比較的高き爲普く貧民に利益を得せしむる能はす故に適當の場所と適當の時日を選み更に湯錢を低減して別に一の浴場を新設せんとて夫々計畫爲したるに意外に設計の困難ありし旨を述へ尚經費の報告を爲し次にテー、シー、ホースフォール夫人は同會の事業に關する有益の演說を爲し次にダブルユー、エイチ、ホーランド夫人は議會は貧民の健康幷に生活を保護する爲に適切の法案を議決したるも此婦人衛生會の事業上に付ては何等の便利をも與へさりし然れとも吾々は斯かる事柄に心を留めず人類相愛の義心に訴へ本會の事業擴張を謀らさるへからす云々と述べ次にドクターリーチ氏は次期に於ける役員選擧の事を告け次で貧民をして自助自衛の道を得せしむるは本會の務めにして公衆をして衛生上に關する知識を得せしむるも本會を除て他に求むへからすと述へ次にゼー、イー、フイジアン夫人は或る代議士が同會に向て希望せる言を引て演述し其他二三の決議を爲し一同會長夫人の同會の爲に盡せる功勞を謝して閉會せり（大日本私立衛生會雜誌）

新潟支會記事

◉新潟支會に於ける總裁殿下の御令旨

兩殿下は長谷川病院御退去後直ちに縣會議事堂に臨ませられ階上設けの席にて御小憩の後ち午後三時過ぎ妃殿下は支部會頭知事夫人の御先導にて會塲に臨ませ玉ふ高崎別當以下之れに從がふ殿下上段の席に着かせらるゝや一令敬禮を行なふ此の時君ケ代の唱歌ありて淺田會長會員名簿を上り夫れより高崎別常殿下の御令旨を讀み上ぐ左の如し

衛生の人間に必要なるは今更いふまでもなし大日本衛生會の業務漸く發達して新潟支會を開くにいたり今日諸氏と相見るは賴子の深く喜ぶところなり爾後ますゝゝ心を同し力をあはせて他日の好果を結ばむ事を望む

次に杉本夫人左の答辭を讀む

明治廿九年七月十一日大日本婦人衛生會新潟支會を開くに當り畏くも總裁殿下御車を枉げさせ給ひしかのみならず優渥なる令詞を賜ふ加納子等如何にして此光榮に酬ひ此令詞に答へ奉るべき

謹みておもふに衛生の事は諸人と共に其成功を永遠に期すべく一朝にして功果を收めん事は望もおよぶべきにあらざれば苟も會員たらんものは其一擧一止皆衛生の本旨に據り自ら修めて之れを衆に及ぼし其幸福を共にせんことを勉むるの外他なきを信ず加納子等の微力素より全功

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を收むるに足らざるも殿下の令詞を守りますゝ此會をして盛ならしめ聊か其德に酬ひ奉ん事を期す會員一同に代り謹みて白す

明治廿九年七月十一日

大日本婦人衛生會新潟支會

副會長　杉本加納子

次に淺田醫學士亦左の答辭を讀む

殿下親ら婦人衛生會に枉けられ渥く令旨を賜ひ奬勵し賜ふ會員誰れか感荷せざらん某等之を講師に承く黽勉會員を啓發し以て令旨に背かざらんとを期す謹で奉答す

私立大日本婦人衛生會新潟支會

講師惣代　淺田決誠恐誠惶

次に石黑軍醫總監は婦人衛生の重要なるとを演説さる其摘要左の如し

衛生の重んずべきは論を俟たずと雖も殊に婦人に於て最も重きを加ふ何となれば健兒を産みて壯健に養育せざるべからざる任務あればなり諸子此に見るあり此會を設けらる希くは講師の敎養指導に從ひ其普及を計らんことを予は軍人なるの故を以て各地に入る毎に先づ歸鄕兵士の健否を第一に視察し第二に小學生徒の体育如何に注目す兒童は第二の軍人なるを以てなり强壯なる第二の軍人を出し國家の干城たらしむるの責一に諸子に在り請ふ努力せよ

是にて式終り殿下退出したまふ

◎內務大臣の訓令

赤痢猖獗を極むるに付內務大臣は去月二十六日を

以て臨時撿疫部設置地方以外の各地方官に向け左の趣旨の訓令を發せり
赤痢の流行は明治廿六廿七兩年を以て最も甚しと爲す廿八年は虎列剌の流行の結果公衆衛生法勵行の餘響に依り赤痢も亦熾なるに至らず其患者數前兩年の三分の一に滿たざりしが本年は未だ甚しき流行に至らざるも各府縣概ね多少の患者あらざるはなく特に群馬縣の如きは有病區域村市十一郡百十一村に亘り最近一週間の如きは新患者千三百七十五名に及び其蔓延の　速なる實に寒心すべし蓋し本年暑氣の酷烈なると各地水害の頻繁なるとは皆な本病蔓延の媒助たるの虞あり今にして豫防の注意を誤らば再び廿六廿七兩年の如き大流行に陷るべし就ては此際廿七年勅令第十四號を適用し市町村に於ける豫防上各般の施設を全うし府縣に於ても亦相當の設備を爲し彼是相待て病毒を未だ甚しからざるに防遏する樣措置せらるべし

◉赤痢病

本年は群馬縣伊香保より西多摩郡霞村に輸入し其より練馬村高井戸村附近に數百名の患者を生じ延いて牛込赤坂等同所に接近せる區内に侵入し去月二十八日屆出の府下患者合計三十八人にして當局者は之れか豫防の爲め非常の多忙を極むといふ尙地方にして赤痢流行地は群馬縣を初めとし愛知愛媛以下四十餘縣悉く流行するに至る

◉人壽の統計

ドクトル、サルズマン氏は舊記に因りて人生の壽命の比較表を作れりと云ふ氏の統計に據れば人生の壽命は漸次延長の結果なりと即ち左の如し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

十六世紀　平均　三十六年五ヶ月
十七世紀　平均　四十五年八ヶ月
十八世紀　平均　四十四年八ヶ月
十九世紀　平均　五十六年七ヶ月

斯く追次長壽の結果を現ずるものは醫術の進歩の致す處にして年々諸種ある病原の發明は今後尚は人生を長命ならしむるに至るべし云々

●全世界の死亡及び出産數

最近の調査によれば全世界に於る死亡數は平均一分に六十八人、一日に九萬七千九百二十八人、一年に三千五百七十六萬五千二百八十人にして、出産數は平均一分に七十八人、一日に十萬八百八人、一年に、三千六百八十一萬七千二百八人の割合なりと云ふ

●本年虎列刺病なき原因

昨年は虎列刺病非常の毒勢を逞しうせしを以て今年は必らず大流行あるべしと思ひしに今に至るも何の地方にも甚だ少し其源因は或る一の流行病發生するときは他の惡疫は概ね大流行を爲すに至らざるものにて今年は春季に再歸熱流行し清潔法飲食物等にも世人の注意せしと當局者の注意嚴密なりしとにて病毒を撲滅したるに因りしものならんといふ

●學齡未滿の兒童の就學禁令

學齡未滿の兒童を小學校に就學せしむるは兒童身神の發育を害するを以て自今嚴禁すべき旨西園寺文部大臣より地方官に訓令せられたり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

寄送雜誌（八月中）

齒科醫學叢談　高山紀齋君
鼻耳咽喉科雜誌　金杉英五郎君
細菌學雜誌　會員澤まき子
大日本私立衛生會雜誌　大日本私立衛生會
埼玉衛生會雜誌　仝埼玉支會
三重衛生雜誌　仝三重支會
女學講義　女學雜誌社
中外藥報　中外藥報社
護國楯　北海時論社
藥石新報　藥石新報社
婦人新報　婦人新報社
衛生資論　滋善金
光　光雜誌社
國のいしずゑ　防長教育會
越佐教育雜誌　越佐敎育社

廣告

◎正誤　前號三陸海嘯害地義捐姓名表中牛込區及麹町區之部左の通り脱漏に付玆に正誤す

一金五拾錢　牛込　島崎とく子
一浴衣五枚　麹町　相原ひさ子
一浴衣壹枚　仝　平松とよ子
一浴衣大小四枚　仝　進　とし子

尙牛込區の部竹谷うた子は竹屋雅子の誤り鳩山春子寄附は小石川區に挿入すへきを牛込區に掲載せしは誤植にして金圓の外（定紋附五布風呂敷）寄附脱漏せり因て是又正誤す

入會者

去八月より九月に至る入會轉居者左の如し

◎會員高橋孝子の紹介により
一下谷仲徒町二丁目卅五番地　通常會員　丸茂むね子
一京橋銀座三丁目二十一番地　通常會員　吉田賢子

◎評議員上野幾子の紹介により
一芝松本町四十四番地通常會員　緒方芳子

◉千葉支會へ申込により

一千葉縣千葉町　紅谷いつ子

一千葉縣吾妻町　紅谷ゑつ子

一千葉縣長洲町　河村こう子

一千葉縣旭町　若森よね子

◉新潟支會へ申込により

一新潟市上大川前通七番町六十三番戸　小山せい子

一新潟市上大川前通五番町　中山とう子

◉事務所へ申込により

一新潟縣北蒲原郡金塚村大字金子　通常會員　白勢はて子

一小石川指ヶ谷町盲啞學校內　贊成員　吉川金造君

一日本赤十字社病院　沼田ぬ二子

一日本赤十字社病院　前木ゆたか子

◉加藤ふみ子の紹介により

一日本赤十字社病院　岩井千代子

◉中橋ゑつ子の紹介により

一京橋三十間堀二丁目九番地　通常會員　新山きく子

轉居

麴町三番町五十二番地へ　佐々木梅子

芝車町萬清向へ　橋口清子

淺草向柳原町一丁目十七番地へ宮下とし子

神田東紅梅町六番地へ　高瀬みき子

本鄕元町二丁目四十七番地へ　岩田松二郎君

南葛飾郡寺島村元寺島千七百五十八番地へ　須藤鳳子

牛込砂土原町三丁目十六番地へ西川ふみ子

神田淡路町二丁目九番地神田氏方へ　吳琴子

麴町土手三番町三十番地內川氏方へ　俊野いわ子

麴町上六番町十五番地へ　福井政子

鹿兒島縣清水馬場町四十二番地本田氏方へ　末川登志子

本鄕曙町十六番地飯澤氏方へ　清水うめ子

本鄕弓町一丁目廿九番地へ　清水富喜子

大日本婦人衛生會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立大日本婦人衛生會規則

第一條　凡本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を増進するにあり

第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置く

第三條　本會の會員たらんと欲する者は身分の尊卑を問はず何人にても入會することを得

第四條　會員たらんと欲する者は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込ある可し
　但し事務所は下谷區練塀町四十三番地に置く

第五條　本會々員を分て終身會員特別會員通常會員の三類とし共に會費金を納むる者とす
　但終身會員は一時に金拾圓以上を納め特別會員は一年金二圓四拾錢以上を納め通常會員は同金壹圓二拾錢を納むる者とす尤も會員中書生及其他事故ある者は唯雜誌料として同六拾錢を納めしむ

第六條　男子にして本會の主義を賛成する者は之を賛成員とす尤も會費は本會員に同し
　但本會に功勞ある者は役員の協議を以て終身賛成會員(無會費)とすることを有る可し

第七條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉す推戴員は皇族の御息所等に之を申請するものとす

第八條　本會は左の役員を置く
　會長一名　副會長一名　幹事七名　評議員二十名　書記若干名

第九條　會長副會長及幹事評議員は會員の投票を以て之を撰擧し書記は幹事の推撰により會長之を命ず
　但書記は都合により會員外の婦人又は男子に托することあるべし

第十條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し又は其代理をなし幹事は會長の命を受けて會務を處理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命に從て諸記錄及雜務を掌る
　但幹事の分課を設けて　第一　會計　第二　編輯出版　第三　庶務とす

第十一條　會長の見込を以て右役員外に會員中より臨時に指名委員を置くことあるべし

第十二條　會長副會長及幹事評議員の任期は一年とす尤も再撰するも妨げなし

第十三條　會長副會長及幹事評議員は無給料とし書記は相當の報酬を給す

第十四條　本會の集會は七月八月を除くの外毎月一回とし通常第一土曜日午後一時より之を開く

第十五條　每會學識經驗ある者を聘し講義演説を囑し本會々員の演説と共に之を筆記して本會雜誌に掲載し毎月各一册つゝ無代價にて之を會員に頒付するものとす
　但し演説の間に談話を交ゆる事あるべし

第十六條　會員は家族の婦女子又は知己の婦人を本會々場に誘致して傍聽せしむることを得

第十七條　講義演説の際男子の傍聽を禁ず
　但會員に縁故ある男子は此限にあらず

第十八條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす
　但些少の金額は日々の費用支出の爲め事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

務所に引出置を得

第十九條　會計の收支は總て會計課幹事の撿印を要す

第二十條　會員又は會員外より金圓若くは書籍物品等を寄贈わるときは本會より謝狀を送り且寄贈の品目及其人の姓名を本會雜誌に載せ報告するものとす

第廿一條　會費は郵便小爲替にて東京下谷郵便局へ向け振出しある可し

但不得止場合には郵便劵を代用するも妨けなし尤も一割增とす

第廿二條　入會員には會員證を附與すべきに付郵便にて申込の者は郵便劵二錢を添ふ可し

第廿三條　每年三月九月の總會に於て會計の收支庶務の概略并に會員の增減等を報告す可し且規則改正の案あれば之を議定するものとす尤も議定は總て多數決とし可否半數なるときは會長之を決す

但至急規則の改正を要する事あるときは豫め會員に報して臨時に之を爲すことを得

第廿四條　三月の總會に於て役員の撰擧をなすものとす

第廿五條　規則の範圍內に於て役員の評議を以て會細則を設くることを得

第廿六條　各地方にて發起者十人以上ある者は支を設くることを得

但其規則は本會の規則に抵觸せざる樣起草し本會役員の認可を經へし

第廿七條　本會の集會場は時々報知する者とす

第廿八條　會費金は受領證を付與すべし尤も小爲替又は郵便劵にて納むる者は右受領證遞送費として郵劵二錢を添ふべし然らざれば受領證は送付せざるものとす

明治二十五年九月

東京下谷區練塀町四十三番地

私立 大日本婦人衛生會

齒科診察

午前八時か
午後五時迄

東京日本橋區本町二丁目十二番地

齒科醫 高橋コウ

明治廿九年九月二日印刷

明治廿九年九月四日發行

發行所　東京下谷區練塀町四十三番地　大日本私立婦人衛生會

編輯兼發行者　東京牛込區矢來町三番地　田中德三郎

印刷者　同　神田區小柳町十三番地　高良造

印刷所　同　神田旅籠町貳丁目拾一番地　廣業館

明治廿六年四月四日遞信省認可第一金曜日發行

（定價金拾錢）